

令和5年度

埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会
研修集録



「埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会

研修集録発刊にあたって

埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会
会 長 寺田 竹雄

本年度の埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会「研修集録」の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。また、日頃より皆様方におかれましては、埼玉県内各市町村における社会教育の向上発展のために深いご理解とご尽力を賜り誠に有り難うございます。

月日の経つのは早いもので、令和4年度より埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会会長に私が就任してから、まもなく2年が過ぎようとしています。これまでこの重責を果たせたのも、ひとえに皆様方の温かいご支援とご協力の賜と、あらためまして衷心より感謝申し上げます。

さて、アフターコロナの時代、社会教育の果たすべき役割が、一層重要となっています。コロナ禍により、希薄化が過速度的に進んでしまった人間関係、地域のつながりの希薄化等、社会が直面する課題が山積しております。その解決のため、社会教育委員一人一人が意識的に取り組む「行動する社会教育」、そして各市町村の実態に応じて、「らしさ」を出すことが、ますます求められています。

私たち社会教育委員の役割は、「人づくり」、「地域づくり」、「つながりづくり」であります。私たち社会教育委員が、学びの支援、地域課題の解決に向けた取り組み等に、パイプ役、コーディネーター役、そして、会議でのファシリテーター(進行)役として積極的に関わることが期待されています。

皆様とは、自らの地域に適した方法で社会教育の推進に向け、共に寄与していきたいと思えます。その活動が、地域の人と人との「絆」を深め、地域課題の解決や、地域活性化につながることを思います。

いずれにいたしましても、皆様にとりまして本研修集録が、今後の新たな社会教育活動や実践に向けての一助となることを願ってやみません。

結びに、本研修集録発刊にあたりまして、ご講演をいただいた講師の方々や各市町村職員、各教育事務所の先生方等、掲載許可や原稿執筆を快くお引き受けいただいた皆様に対し、重ね重ね感謝申し上げます、私からの挨拶といたします。

令和6年3月

目 次

令和5年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会関係研修会一覧..... P. 1

令和5年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会研修会..... P. 2

令和5年度東部地区社会教育関係委員・職員研修事業..... P. 3

令和5年度入間地区社会教育関係委員・職員研修事業..... P. 8

令和5年度比企地区社会教育関係委員・職員研修事業..... P. 14

令和5年度北部地区社会教育関係委員・職員研修事業..... P. 19

【令和5年度研修会実施会場市町村】

県協議会	東部地区	入間地区	比企地区	北部地区
嵐山町	春日部市	ふじみ野市	川島町	オンライン



令和5年度埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会関係研修会一覧

1. 埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会研修会

日 時	令和5年5月31日(水) 15:05 ~ 16:30
会 場	国立女性教育会館
テ ー マ	「社会教育委員のいない社会教育なんて ～社会教育と学校教育をつなぐ社会教育委員～」
参加市町村	入間・比企・大里・北埼玉・埼玉地区市町村
参加人数	144人

2. 東部地区社会教育関係委員・職員研修会

日 時	令和6年1月23日(火) 13:40 ~ 16:05
会 場	春日部市中央公民館
テ ー マ	「人々をつなげる社会教育の役割」
参加市町村	春日部・加須・行田・久喜・越谷・幸手・白岡・杉戸・蓮田・羽生・松伏・ 三郷・八潮・吉川・宮代
参加人数	104人

3. 入間地区社会教育関係委員・職員研修会

日 時	令和5年10月18日(水) 13:00 ~ 16:00
会 場	ふじみ野市ステラ・イースト多目的棟
テ ー マ	「地域社会の活性化と社会教育委員の役割」～広げよう、地域のつながり～
参加市町村	川越・狭山・所沢・飯能・日高・越生・毛呂山・坂戸・鶴ヶ島・入間・ 富士見・ふじみ野・三芳
参加人数	65人

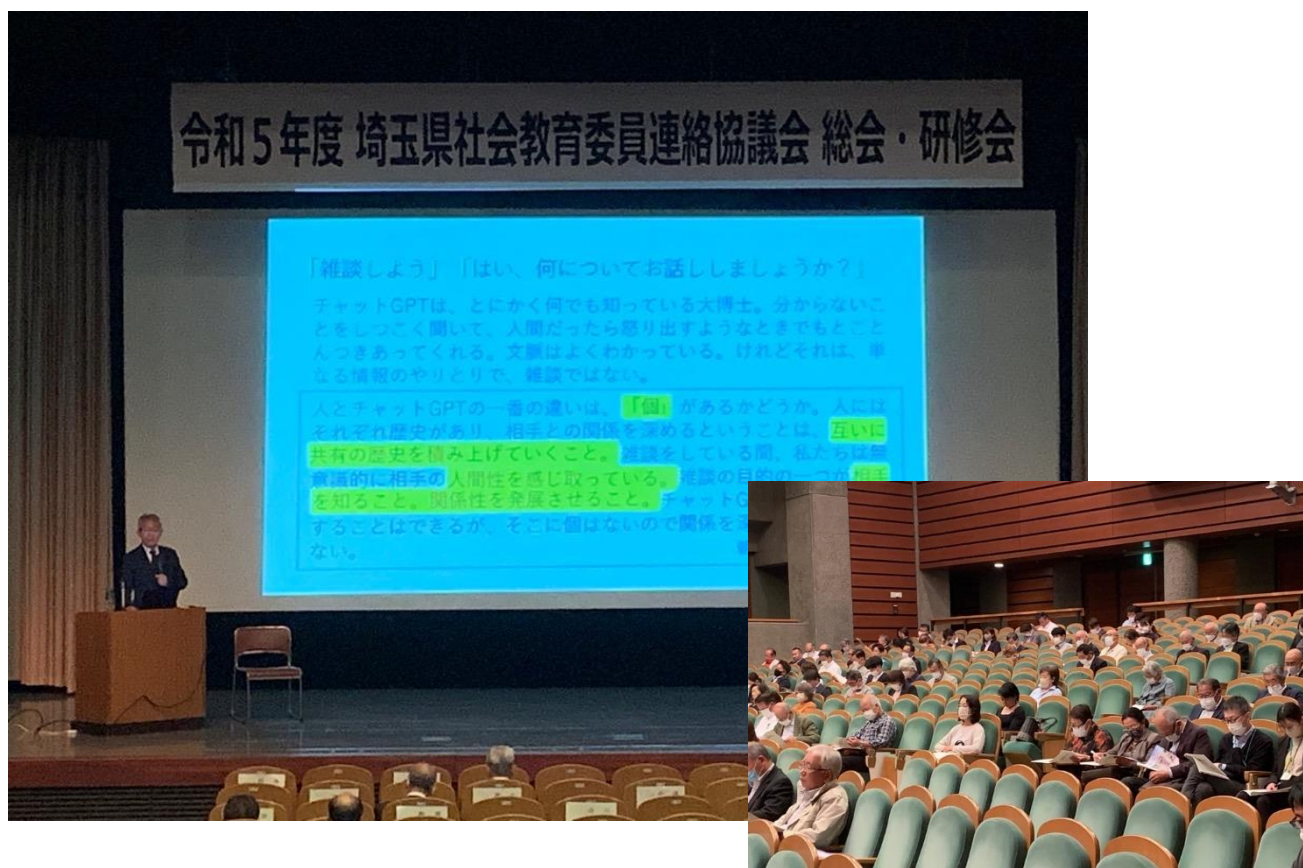
4. 比企地区社会教育関係委員・職員研修会

日 時	令和5年11月28日(火) 13:00 ~ 16:30
会 場	川島町民会館ホール
テ ー マ	「50年先の未来を見据えた社会教育委員の役割 ～次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討について～」
参加市町村	東松山・滑川・嵐山・小川・ときがわ・鳩山・川島・吉見・東秩父
参加人数	58人

5. 北部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会

日 時	令和5年10月25日(水) 13:00 ~ 16:20
会 場	オンライン開催
テ ー マ	地域と学校を繋ぐ、これからの社会教育の在り方について
参加市町村	秩父・横瀬・小鹿野・皆野・長瀨・本庄・上里・美里・神川・熊谷・深谷・ 寄居
参加人数	80人

令和5年度 埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会研修会



1 日 時 令和5年5月31日（水） 15:05 ～ 16:30

2 場 所 国立女性教育会館

3 講 師 笛木 哲 氏

川島町の教育委員会において指導主事として、また、小学校で長きにわたり教鞭をとられ、中山小学校長を最後にご退職された。現在は、私立とねがわ幼稚園の園長としてご活躍されている。

4 演 題 「社会教育委員のいない社会教育なんて
～社会教育と学校教育をつなぐ社会教育委員～」

5 講演内容

私たちは、PTA活動や公民館活動等を通じて、社会教育活動に知らず知らずのうちに関わっていることがある。社会教育委員は、「人生100年時代」「生涯学習社会の実現」において、社会教育行政に住民のニーズを伝えたり、地域の教育力向上のために、地域の様々な教育資源（人、モノ、財源等）をつないでいく視点が非常に重要である。

そのためには、「雑談力」を磨くことで、地域住民とのコミュニケーションをはかり、情報収集やネットワークづくりに努めてほしい。そのような取組が、いずれは地域の教育力向上につながり、また、社会教育委員活動の「やりがい」にもつながっていくように考えている。

社会教育委員がいなくても社会教育は成立するかもしれない。しかし、社会が大きく変化（貧困、少子高齢化、地域の衰退、夢を持たない人生など）する中で、社会教育委員が存在することで、ひとりひとりの人生が深みを増し、それが地域の活性化につながると期待している。『クリープを入れないコーヒーなんて（※1）』と同じように、いやそれ以上に。（※1 森永乳業㈱のキャッチコピーを引用してご講演いただきました）

令和5年度東部地区社会教育関係委員・職員研修事業概要

教育事務所名 東部教育事務所
実施場所 春日部市中央公民館

実施日	令和6年1月23日(火)			
対象者 及び 人数等	社会教育委員	39人	生涯学習審議会委員	13人
	社会教育指導員	2人	社会教育担当職員	37人
	社会教育施設職員	3人	公民館運営審議会委員	7人
	その他	3人	計	104人
時間数	13:40 ~ 16:05 (2時間25分)			
講師	講師 1人 ・ 合計 1人			
	講師	現職名	文教大学人間科学部人間科学科准教授 氏名 青山 鉄兵 様	
研修内容	<p>1 開会行事</p> <p>2 実践発表 (1) 実践発表1 春日部市 ①発表題 「人づくり・つながりづくり・地域づくり」は文化活動から ②発表者 春日部市社会教育委員 松田 洋子 様</p> <p> (2) 実践発表2 吉川市 ①発表題 「吉川市社会教育委員の取組」 ②発表者 吉川市教育委員会生涯学習課 山崎 弘輝 様</p> <p>3 講演 『人と地域をつなぐ社会教育の役割』 講師 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 様</p> <p>4 閉会行事</p>			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・春日部市の実践発表は、社会教育と文化活動の果たす役割についてふれ日本伝統文化の継承の重要性を改めて考えさせられる内容であった。 ・吉川市の実践発表は、地域性を生かした社会教育委員のこれまでの取組と、コロナ禍での取組について紹介し、他市町の参考となる内容であった。 ・講演はリアルタイムで参加者の意見が個々に発言でき、それを会場内で共有しながら進め、多くの参加者から好評であった。 			

令和5年度 東部地区社会教育関係委員・職員研修会実施要項

1 趣 旨

東部教育事務所管内各市町の社会教育委員及び社会教育関係職員等を対象とした研修会を実施し、地域の実情に応じた実践成果の発表や提言、提案等を通じて、今後の活動のあり方を具体的に発信できる人材の育成を図る。

2 主 催

- ・埼玉県教育委員会 ・埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会
- ・北埼玉地区社会教育委員協議会 ・埼玉葛郡市社会教育振興会

3 日 時 令和6年1月23日（火） 13：10～16：30

4 会 場 春日部市中央公民館

5 参加者

- ・各市町社会教育委員等 ・各市町社会教育指導員 ・各市町社会教育担当職員
- ・各市町社会教育施設職員（各市15名、各町5名）
- ・各市町公民館運営審議委員 等 合計 約100名程度

6 研修テーマ

「人々をつなげる社会教育の役割」

7 内 容 開会行事、実践発表等

8 実践発表市町（発表ローテーション）令和5年度：春日部市、吉川市

※輪番順（北埼）：行田市→加須市→羽生市

※輪番順（埼玉葛）：春日部市→吉川市→三郷市→久喜市→白岡市→八潮市
→幸手市→越谷市→杉戸町→蓮田市→松伏町

年度	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07
北埼玉地区	—	加須市	—	羽生市	—	行田市	—
埼玉葛郡市	八潮市 幸手市	越谷市	杉戸町 蓮田市	松伏町	春日部市 吉川市	三郷市	久喜市 白岡市

9 運営役員会

(1) 日 時 令和5年11月17日（金） 14：00～

(2) 会 場 春日部市中央公民館

(3) 参加者

①北埼玉地区社会教育委員協議会・・・会長1名、副会長1名、幹事3名

②埼玉葛郡市社会教育振興会・・・会長1名、副会長2名、幹事3名、発表者1名

令和5年度東部地区社会教育関係委員・職員研修会 次 第

令和6年1月23日（火）
春日部市中央公民館「ウイスかすかべ」

1 開会行事（13：40～13：55）

- (1) 開会の言葉
- (2) 主催者挨拶
埼玉県教育局東部教育事務所長 鈴木 美幸
北埼玉地区社会教育委員協議会会長 島田 ユミ子
- (3) 来賓挨拶
春日部市教育委員会教育長 鎌田 亨 様
- (4) 来賓・主催者紹介

2 実践発表

- (1) 実践発表1 春日部市（14：00～14：20）
 - ①発表題 「人づくり・つながりづくり・地域づくり」は文化活動から
 - ②発表者 春日部市社会教育委員 松田 洋子 様
- (2) 実践発表2 吉川市（14：25～14：45）
 - ①発表題 「吉川市社会教育委員の取組」
 - ②発表者 吉川市教育委員会生涯学習課 山崎 弘輝 様

～休 憩～

3 講演（15：00～16：00）

- (1) 講 師 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 様
- (2) 演 題 『人と地域をつなぐ社会教育の役割』

4 閉会行事（16：00～16：05）

- (1) 閉会の言葉

◆発表及び講演の概要

【実践発表1 春日部市】

発表題 「人づくり・つながりづくり・地域づくり」は文化活動から
発表者 春日部市社会教育委員 松田 洋子 様

1 三穂の会について

長年、日本舞踊の活動団体「三穂の会」で日本舞踊を通して礼儀作法や教養を伝えるとともに、指導者の育成もしている。日本舞踊の普及啓発を図り、子ども向け体験講座や国際交流も行っている。特に、子どもだけでなく、親世代への啓発を意識している。

2 文化連合会について

文化連合会にも所属し、さまざまな団体と「文化の祭典」を開催している。個々の発表だけでなく、教育活動にも力を注いでいる。例えば、「かすかべこどもフェスタ」では、日本舞踊体験、水引体験、活花体験などのプログラムを実施し、子どもの体験活動を展開している。

3 文化活動がもつ力について

基本的な人間形成としての「人づくり」、文化をきっかけとした様々なネットワークや同じ志をもつ仲間の「つながりづくり」、文化が充実し、次世代への継承につなげる「地域づくり」。文化活動を通して人づくり・つながりづくり・地域づくりをあきらめることなく貢献していく。

【実践発表2 吉川市】

発表題 「吉川市社会教育委員の取組」
発表者 吉川市教育委員会生涯学習課 山崎 弘輝 様

1 これまでの取組

吉川市の社会教育委員会会議は非常に活発に活動しており、諮問に対する答申に限らず、様々な社会教育への助言を行っている。また、自ら事業の立案をすることもある。

平成22年には『人材育成と「地域で子育て」』を提言し、地域寺子屋事業に結実した。子どもの居場所づくりの事業であるが、地域の大人も参画し、多世代が交流できる場となっている。

2 コロナ禍での取組

文化芸術基本条例の制定において、社会教育委員会会議が重要な役割を果たした。会議では、文化と行政・教育との関係を問い直すところから議論が始まり、制定にあたっては「吉川らしさ」を盛りこむことも意見として出された。

3 今年度の社会教育委員会会議

さまざまな立場・経験を有する参加者が議論し、リアルな地域課題の抽出と課題への道筋を見出すことができている。この会議の存在が、地域に根付く社会教育の成立に大きく貢献している。

【講演】

演 題 「人と地域をつなぐ社会教育の役割」

講 師 文教大学人間科学部人間科学科 准教授 青山 鉄兵 様

- 1 社会教育における「教育」と「学習」のかたち
 - (1) 社会教育の定義と「社会教育らしさ」へのこだわり
 - (2) 社会教育における「教育」と「学習」をとらえる視点
- 2 社会教育が目指す「人づくり」と「地域づくり」の循環
 - (1) 社会教育行政の伝統：「人づくり」と「地域づくり」の循環
 - (2) 社会教育行政がこだわってきたこと
- 3 「地域づくり」のために社会教育・公民館ができること
 - (1) 社会教育・公民館が担うべき「地域づくり」とは
 - (2) 必要な学習ができていない人への注目
 - (3) 他の機関、団体、学校、ボランティア等との連携

◆参加者アンケート

1 実践発表について

回答	人数
参考になった	35
概ね参考になった	26
あまり参考にならない	4
参考にならない	0

2 講演について

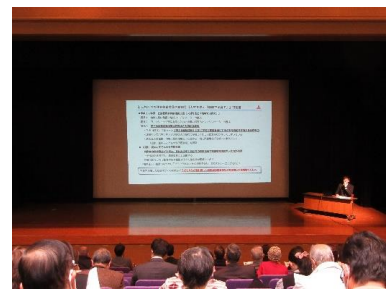
回答	人数
参考になった	57
概ね参考になった	8
あまり参考にならない	0
参考にならない	0



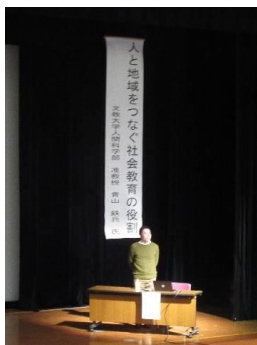
【開会行事】



【春日部市の実践発表】



【吉川市の実践発表】



【青山氏による講演】



【QRコード活用の意識調査】

令和5年度入間地区社会教育関係委員・職員研修事業概要

教育事務所名 西部教育事務所
 実施場所 ふじみ野市ステラ・イースト

実施日	令和5年10月18日(水)	
対象者 及び 人数等	社会教育委員	52人
	生涯学習審議会委員	0人
	社会教育指導員	1人
	社会教育担当職員	8人
	社会教育施設職員	0人
	公民館運営審議会委員	0人
	その他	4人
	計 65人	
時間数	13:00 ~ 16:00 (3)時間	
講師	講師 1人・合計 1人	
	講師 裾野市社会教育委員 小田 圭介 氏	
研修内容	<p>テーマ 「地域社会の活性化と社会教育委員の役割」 ～広げよう、地域のつながり～</p> <p>(1) 基調講演 13:25～14:10 講師：静岡県裾野市社会教育委員長 小田 圭介 氏 テーマ：「社会教育による地域づくりの土台づくり」</p> <p>(2) 分科会 14:20～16:00 第1分科会：社会教育委員って何だろう？ 第2分科会：公共施設と社会教育委員の役割 第3分科会：学校における社会教育委員の役割</p>	
評価	<p>基調講演では、社会教育委員として地域で活動する際の課題や今後、社会教育委員に期待される役割等について質疑が行われた。</p> <p>分科会では、グループ討議の中では活発な討議が行われていた。いかに公共施設を巻き込んだ社会教育ができるか、地域の人々がつながることができる機会を創っていけるかなど、地域との結びつきを目指し、社会教育委員としてできることを議論していた。</p> <p>テーマについて課題や今後のあり方等について討議を行った。各分科会で、司会者を中心として参会者の主体性を生かした分科会となった。</p> <p>コロナ禍で変化した地域の活動について、今後の活動や問題点をディスカッション形式で意見交換を行えた。</p>	

令和5年度社会教育委員研修会実施要項

1 趣 旨

コロナウイルス感染症も制限が解除され、私たちの生活にも以前のような日常が戻り、街も活気を取り戻しています。コロナウイルスによる規制がされた3年間、対面での活動が再開できることを多くの方が待ち望んでいました。お互いの顔を見て、体温を感じて話をしたり、聞いたりすることの大切さを痛感したのではないのでしょうか。

社会教育委員部会でも、部会、研修会の自粛や規模の縮小、開催形式の変更などを余儀なくされてきましたが、ようやく本来の形である分科会形式で開催することになりました。

コロナ禍での自粛生活は、社会のデジタル化への進歩をもたらした反面、地域の社会活動は、不要論、後継者不足などが加速し、消滅の危機に瀕しているところが増えています。人々の意識や地域の活動が変化した社会の利点や問題点を踏まえて、今疑問に思っていること、教えてもらいたいこと、教えてあげたいことなど、ディスカッション形式で意見を交換していきます。地域社会が活性化していくための有効な手段があるのか、これから求められる社会教育委員の役割とは何か、など皆で考え、今後の活動におけるヒントになればと思います。また、社会教育委員になったばかりで何をすればいいのかわからないというご意見が寄せられていますので、「社会教育委員の役割」を学べる分科会も行います。

2 研修テーマ 「地域社会の活性化と社会教育委員の役割」

～広げよう、地域のつながり～

3 日 時 令和5年10月18日(水) 13時00分 ～ 16時00分

4 会 場 ふじみ野市ステラ・イースト多目的棟

5 主 催 入間地区社会教育協議会

6 共 催 埼玉県教育委員会
埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会
ふじみ野市教育委員会

6 参加者 市町社会教育委員 市町社会教育行政担当者 社会教育関係委員 その他

7 日 程

受 付	12:30～13:00
開会行事	13:00～13:20
基調講演	13:25～14:10
分科会	14:20～16:00
閉 会	16:00 (分科会ごとに解散)

8 内 容 基調講演 「社会教育による地域づくりの土台づくり」
講師：裾野市社会教育委員 小田 圭介氏

分科会 第1分科会 社会教育委員ってなんだろう? (定員40名)
コーディネーター 小田 圭介氏

第2分科会 公共施設と社会教育委員の役割 (定員20名)

第3分科会 学校と社会教育委員の役割 (定員20名)

日程及び開会行事次第

令和5年10月18日

- 1 受付 12:30～13:00
- 2 開会行事 13:00～13:20
 - (1) 開会のことば 入間地区社会教育委員部会副会長 齊藤 富美江
 - (2) あいさつ 入間地区社会教育協議会会長 堀 満
西部教育事務所副所長 小林 美音 様
ふじみ野市教育委員会教育長 朝倉 孝 様
 - (3) 趣旨説明 入間地区社会教育委員部会部会長 石川 健一
- 3 基調講演 13:25～14:10
講師： 静岡県裾野市社会教育委員長 小田 圭介氏
テーマ： 「社会教育による地域づくりの土台づくり」
- 4 休憩 14:10～14:20
- 5 分科会 14:20～16:00
第1分科会 社会教育委員って何だろう？
第2分科会 公共施設と社会教育委員の役割
第3分科会 学校における社会教育委員の役割
- 6 解散 16:00
分科会ごとに解散

「地域社会の活性化と社会教育委員の役割」

～広げよう、地域のつながり～

1 基調講演 「社会教育による地域づくりの土台づくり」

講師 静岡県裾野市社会教育委員 小田 圭介氏

社会教育に不足する「日常の関係」に着目し、子どもたちと地域との接点、世代や学校を超えた繋がりを作るべく、裾野市東地区おやじの会においてその基幹事業となっている月1回のお泊まり会「何もしない合宿」を考案、参加者が特別なことを“何もしない”合宿は、地域内の人間関係を厚くし、教育に限らず、地域づくりの土台を作る事業として定着している。

何もしない合宿とは

2012年9月に第1回を開催、基本的に月1回の開催を継続
「人と人が関わる場」「人が人に関わる場」

言い出しっぺ実行委員会方式

- ・「やりたい人」がやる
- ・「やりたい人」が全部やる
- ・「やりたくない人」は邪魔をしない

継続開催で生まれるもの

- ・地域の団体とも連携
- ・役はなぜ面倒なのか
- ・担い手はいつ育て始めるか → 地域の担い手不足の解消～地域再生

担い手不足は人の不足が要因ではなく、つながりの不足が要因



基調講演

2 分科会

第1分科会 社会教育委員ってなんだろう？

参加者30名

コーディネーター 小田 圭介氏

- ・グループ討議 (1) 地域の課題やいいところ
 - ・社会教育委員の取組み
 - ・各種行事と人々のかかわり(毛呂山流鏝馬、祭りのない街から祭りのある街づくり)
- (2) これからどう活かす？
 - ①経験や実績が説得力の源 ②大所高所から俯瞰して
 - ③思いやりをもって ④国はなんと言っているか(中教審)
 - ⑤コロナ禍で気づいたこと ⑥人との繋がりを育もう
 - ・地域の課題を再認識する。
 - ・広報紙をよく確認して自ら参加する。
 - ・社会教育委員会議で自分がどんな提案をしていくか考える。
 - ・それぞれの立場において課題を出し合い、それを集結していく。
 - ・社会教育委員どうし、お互いを知ること、そして共通の課題や取組みを共有しながら連携し、地域に活かすことが重要。



第1分科会



第2分科会

第2分科会 公共施設と社会教育委員の役割

参加者10名

- ・グループ討議 (1) 所沢市の公共施設と社会教育委員
 - ・所沢市における公民館活動と課題、今後のあり方
- (2) 狭山市の公共施設と社会教育委員一例紹介
 - ・社会教育委員として公共施設との関わり
- (3) グループでの意見交換・討議
 - ・わが市、わが町の公共施設活動状況と自分が思う課題
 - ・公共施設に社会教育委員として自分が関わったこと

第3分科会 学校教育と社会教育委員の役割

参加者21名
・グループ討議

(1) 社会教育委員について

・各市町で構成メンバーに特徴がある。

商工会、交通安全指導員、市子連、ボーイスカウト連盟、郷土芸能保存会、主任児童委員、婦人会、家庭教育アドバイザー、etc

・議題もそれぞれ特徴がある。

自主研修として開催、子ども会の活動について、学校と社会教育について、地域学校協働活動について、図書館について、家庭教育の在り方について、市民文化祭の保存について、公民館の名称がなくなる事による問題点について、etc

(2) 学校との関わり

・児童の放課後学習補助活動の支援に関わっている。

・学校だよりなどを町会で回覧している。⇒市町や学校により違いがある。

・地域学校協働活動の導入も市町により違いがある。⇒学校教育課が主導している市町が多いが、社会教育課が関わることで、公民館と学校がつながりやすいのではないか。



第3分科会

3 成果と課題

コロナウイルスによる自粛の解除で、3年ぶりに分科会が行われ、久しぶりに対面での意見交換は有意義なものとなった。コロナ禍で活動が中止、縮小され、存続の危機にさらされている団体もあり、その打開策の参考となったとの意見や、社会教育委員として日が浅く、何をしたいのかわからないという意見を元に「社会教育委員とは？」というテーマとしたが、今後の社会教育に必要なことが見えてきたという意見も聞かれた。

社会教育委員として、学校、公共施設を巻き込みながら、地域の人々とつながることができる機会を創っていくことが重要であるが、いかに巻き込んでいくかが、今後の課題となっている。

令和5年度比企地区社会教育関係委員・職員研修事業概要

教育事務所名 西部教育委事務所
 実施場所 川島町民会館ホール

実施日	令和5年11月28日 (火)	
対象者 及び 人数等	社会教育委員 40人	生涯学習審議会委員 0人
	社会教育指導員 0人	社会教育担当職員 11人
	社会教育施設職員 0人	公民館運営審議会委員 0人
	その他 7人	計 58人
時間数	13:00 ~ 16:30 (3.5)時間	
講師	講師 1人・合計 1人	
	講師 日本教育公務員弘済会 平岡 健氏	
研修内容	<p>テーマ 「50年先の未来を見据えた社会教育委員の役割 ー次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討についてー」</p> <p>(1) 研究発表 13:20~14:00</p> <p>(2) 研究協議 14:10~15:10</p> <p>グループ討議テーマ 「次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討について」</p> <p>(3) グループ討議報告 15:25~15:55</p> <p>(4) 指導助言 15:55~16:25</p>	
評価	<p>研究発表では、「次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討」の3つのテーマに沿った研究を行った川島町の取組を分かりやすく説明していただいた。</p> <p>研究協議では、3つのグループに分かれ、各テーマに沿って、比企地区管内の市町村の現状や今後の課題など、社会教育委員を中心に議論した。グループ討議報告では、ポストコロナの活動について共有し、今後の活動について考えることができた。</p> <p>今後の社会教育委員の活動について各市町村が意見交換を行い、課題などを共有することができる有意義な時間となった。</p>	

令和5年度比企地区社会教育委員研究集会開催要項

- 1 研究主題 「50年先の未来を見据えた社会教育委員の役割
一次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討について」

2 趣 旨

今から約50年前のオイルショックと共に終焉した高度経済成長期では、就業構造の変化、都市化による地域社会の変化など大きな社会構造の変化があった。その影響から、高学歴化、余暇時間の増大、技術革新がもたらす学習需要の高まり、また、地縁性を基盤にしていた社会教育団体が一層衰退した時代であった。そのため、昭和46年の社会教育審議会の答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」は、社会教育を「生涯教育」の観点から再構築するための提案が行われ、現在の生涯学習政策へと続くターニングポイントとなった。

それから、50年間の社会情勢は、「右肩上がり」から「成熟・円熟」したものに変化しつつある。さらに、今日的な課題として、人口減少や高齢化・グローバル化・貧困や社会的孤立等が注目されている。そのような状況下で、コロナ禍を経験した我々の社会は、「ポストコロナ」という言葉に代表されるように、今新たな社会の枠組みを模索し続けている。

社会教育委員は、このような社会の転換期にあって、可能な限り50年後の未来を見つめて、今後の社会教育行政の有り様を導く、極めて重要な役割を担っている。本研究集会では、住民の主体的な学びを基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりが推進されるための具体的方策を参加者の方々と意見交換をしながら一緒に考えていきたい。

- 3 主 催 川島町教育委員会
埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会
比企地区連合社会教育委員会
- 4 期 日 令和5年11月28日（火） 13:00～16:30（予定）
- 5 会 場 川島町民会館ホール 他
(川島町大字下八ツ林926-1 電話:049-297-1667)
- 6 参加者 比企地区各市町村社会教育委員
比企地区各市町村社会教育担当者
その他社会教育関係者

7 日 程

受 付	12:45	～	13:00
開 会 行 事	13:00	～	13:15
舞 台 転 換	13:15	～	13:20
研 究 発 表	13:20	～	14:00
休憩・会場移動	14:00	～	14:10
研 究 協 議	14:10	～	15:10
休憩・会場移動	15:10	～	15:25
研 究 協 議 報 告	15:25	～	15:55
指 導 助 言	15:55	～	16:25
閉 会 行 事	16:25	～	16:30

令和5年度比企地区社会教育委員研究集会次第

開催日：令和5年11月28日（火）

会場：川島町民会館ホール

司会：東松山市社会教育委員 野口 紀子

1 開会行事（13：00 ～ 13：15）

- | | | |
|-----------|------------------|-------|
| (1) 開会の言葉 | 比企地区連合社会教育委員会副会長 | 峯 岩男 |
| (2) 主催者挨拶 | 比企地区連合社会教育委員会会長 | 谷野 裕子 |
| (3) 来賓挨拶 | 川島町長 | 飯島 和夫 |
| | 西部教育事務所所長 | 衛藤 一憲 |
| (4) 歓迎の言葉 | 川島町教育委員会教育長 | 関口 敬氏 |

2 研究発表（13：20 ～ 14：00）

- ①テーマ：「50年先の未来を見据えた社会教育委員の役割
一次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討について」
- ②発表者：川島町社会教育委員

～休 憩～

3 研究協議（14：10 ～ 15：10）

- ①グループ討議
テーマ：「次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討について」
- ②グループ討議報告

4 指導助言（15：55 ～ 16：25）

- (1) 指導助言 日本教育公務員弘済会 平岡 健
テーマ：「50年先の未来を見据えた社会教育委員の役割」
- (2) 謝辞 比企地区連合社会教育委員会会長 谷野 裕子

5 閉会行事（16：25 ～ 16：30）

閉会の言葉 比企地区連合社会教育委員会副会長 今井 孝雄

◆研究発表・研究協議・指導助言の概要

【研究発表】

川島町社会教育委員は、次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討という3つのテーマごとに発表を行った。

1 はじめに

- (1) 川島町の生涯学習・社会教育の取組
- (2) 社会教育委員会議（令和4～5年）の実施状況

2 提言内容

(1) 次世代の育成

学校と地域が連携を図りながら、町ぐるみで子どもの学びを支える事業について整理し、課題と提言をまとめた。

- 課題 地域学校協働活動や地域子ども教室、また、スポーツ事業等の実施日が重なることや、スタッフの高齢化により事業の継続が難しいこと。
- 提言 事業の精査を行い、活動内容や実施日等を調整するコーディネーターを育成する必要があること。

(2) 社会教育のこれから

生涯学習と社会教育の施策における町政と教育委員会の関わりについて整理し、課題と提言をまとめた。

- 課題 人口減少が進み、地域組織の維持が難しくなることで、地域行事を実施できないことや、住民同士の支えあいが機能しなくなること。
- 提言 社会教育事業に関する定期調査を実施することで、地域課題を把握して事業の見直しを行うことや、社会教育委員会として、地域課題を踏まえた事業の提言をまとめる必要があること。

(3) 社会教育施設の検討

人口減少に対応した社会教育施設のあり方を検討し、課題と提言をまとめた。

- 課題 人口減少による税収減や施設利用者の減少に伴い、施設の維持に充てられる財源が限られ、既存の施設の存続が難しいこと。
- 提言 町の人口規模に基づき、施設を適正に配置し、既存の施設の機能を高める利用方法を検討する必要があること。

3 まとめ

川島町社会教育委員は、今日的な課題である人口減少や少子高齢化等が、町の生涯学習・社会教育事業に影響を及ぼしていることを踏まえ、このような社会の転換期にあって、社会教育が担う役割について、各テーマごとに検討してきた。

本研究集会にて、比企地区の委員の皆さんと、社会教育の基盤である、人づくり・つながりづくり・地域づくりが推進されるための方策について考えを深める契機となった。

【研究協議】

比企地区管内の市町村でグループ討議を行った。次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討を各グループのテーマとして討議し、全体会において内容の報告が行われた。

1 各グループの意見

(1) 次世代の育成

- 自ら進める学習、学ぶ力の育成について
- 家庭教育（親子の絆）の大切さ
- 地域でのコミュニティ活動の場の設定の大切さ
- 就業時間等によるコミュニティ意識の希薄化
- 中高大学生等次世代を支える人材の参加促進
- 伝統芸能等への参加促進や次世代への継承

(2) 社会教育のこれから

- 人口減少により、お祭り等の地域活動の継続が困難
- 地域活動を支える役員のなり手不足
- 地域活動に若者が参加できる場づくり

(3) 社会教育施設の検討

- 施設の需要を踏まえた施設数の縮小
- 縮小された施設の跡地の有効活用
- 地域住民が活用できる施設のあり方の調査
- 災害時にも機能する施設の検討
- 施設で行うイベントの積極的な周知

【指導助言】

平岡 健 氏（日本教育公務員弘済会）から、「50年先の未来を見据えた社会教育委員の役割」をテーマに指導助言をいただいた。

1 指導助言の内容

「今と50年後の未来について」

今と50年後で変わらない点として、人口減少・情報技術の発達・災害の発生があり、ウェルビーイング（健康的、精神的、社会的にも良好な状態）と持続可能な社会の実現が必要となってくる。

また、社会教育を担えるコーディネーターやファシリテーターの必要性や第3の場所（家庭、学校、職場とは別に存在する、居心地のよい場所）の大切さ、コミュニティスクールの重要性についてご教示いただいた。

さらに、まとめとして、50年先の社会教育を活性化するために、地域や学校、企業等、様々な結び目をつくる必要があるとのことであった。



研究発表の様子



研究協議の様子

令和5年度北部地区社会教育関係委員・職員研修事業実施報告書

教育事務所名（ 北部教育事務所 ）
 実施場所（ 各市町の庁舎及び
 北部教育事務所Zoom開催 ）

実施日	令和5年10月25日(水)	
対象者 及び 人数等	社会教育委員 52人	生涯学習審議会委員 0人
	社会教育指導員 2人	社会教育担当職員 9人
	社会教育施設職員 0人	公民館運営審議会委員 0人
	その他 17人	計 80人
時間数	13:00 ~ 16:20 【3時間】	
講師 助言者	講師 1人・助言者 0人・合計 1人	
	講師 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 社会教育調査官 石津 峰 氏	
	助言者 なし	
研修内容	1 講演 13:20~14:30 演題「これからの社会教育の在り方について - 社会教育委員としての活動のヒント -」 2 協議 14:35~15:35 (市町ごとにグループ協議) 協議題「講演を受けて、これからの社会教育の在り方について」 3 全体会 15:35~16:15 グループ協議の内容を発表・共有	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中、有意義な会議であった。 ・講演では最新の情報が聞けてよかった。また、社会教育と学校教育の連携の大切さについて学ぶことができた。 ・市町ごとにどのように取り組んでいくか考える時間をもてたのでよかった。 ・各市町の担当者の協力のもと、オンラインで開催できてよかった。 ・社会教育委員の役割が、地域によって偏りがあるように感じられた。さらに地域の中に入り込んで活動できる機会を作っていきたい。 ・社会教育委員の立場が、地域の方々に理解、浸透されていない部分もあると感じた。 	

令和5年度北部地区社会教育関係委員・職員研修会実施要項

1 趣 旨

今日、産業構造の変化による都市化や過疎化、価値観の多様化などに伴い、地域における人と人とのつながりや連帯感、支え合いの意識が薄れてきている。その一方で、東日本大震災以降、地域住民が主体となったまちづくりや人と人との「絆」を深めることの大切さが強く求められている。このように社会状況が変化する中、自らの個性や能力を伸ばし、社会に積極的に参画する地域住民の活動を支援するためには、社会教育に携わる関係委員や職員の役割が大いに期待される。

そこで、北部地区の社会教育委員及び社会教育関係職員等を対象とした研修を実施し、地域の実情に応じた実践成果の発表や提言、提案等を通じて、今後の活動のあり方を具体的に発信できる人材の育成を図る。

2 主 催

埼玉県教育委員会

埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会

児玉郡市社会教育委員連合会

秩父地区社会教育委員

大里地区社会教育委員連絡協議会

3 期 日 令和5年10月25日（水）

4 開催方法 オンライン

5 日 程

(1) 受 付 13:00～13:15

(2) 開会行事 13:15～13:20

(3) 講 演 会 13:20～14:30

講師 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

社会教育調査官 石津 峰 氏

演題 「これからの社会教育の在り方について」

～社会教育委員としての活動のヒント～

(4) 協 議 14:35～15:35（グループ協議）

協議の柱「講演を聞いて、これからの社会教育の在り方について」

15:35～16:15（全体会・発表）

(5) 閉会行事 16:15～16:20

6 参加者対象者

市町社会教育委員・社会教育指導員、市町社会教育行政担当職員等

7 研修テーマ

「地域と学校を繋ぐ、これからの社会教育の在り方について」

令和5年度北部地区社会教育関係委員・職員研修会

1 はじめに

(1) 研修テーマ設定の趣旨

4月と8月に実施した社会教育委員・職員研修会担当者会議において、12市町の社会教育関係委員担当者がオンラインで協議をし、本年度の研修のテーマを「地域と学校を繋ぐ、これからの社会教育の在り方について」とした。

地域社会のつながりや支え合いの希薄化、家庭の孤立化等の現代社会の状況の中で、学校や家庭、地域社会が連携し、十分な教育的機能を発揮することが大切であることから、今回のテーマとした。また、12市町の担当者が異動に伴い、初めて生涯学習に携わる者が多く、これからの社会教育に求められることを改めて学び、持続可能な地域づくりを推進していくことをねらいとした。

(2) オンライン研修までの課題、改善策、手立て等について

本研修会の参加対象者は、オンラインでの研修や会議の経験が少ない方が多かった。そこで、各自治体の庁舎にオンライン会場を設けたため、オンライン操作が原因で参加できないという方はいなかった。

今年度の研修会は、昨年度の経験を踏まえた上で、講演後に分科会の時間を設定して実施した。分科会は原則、各市町の庁舎に集合し、講演の内容をもとに自分たちの自治体で推進していけることを話し合った。市町の担当者にも協力していただき、分科会を運営することができた。

しかし、市町によっては会場の広さやICT機器の保有状況が異なるため、来年度に向けて更なる改善が必要である。

2 講演について

(1) テーマ「これからの社会教育の在り方について ～社会教育委員としての活動のヒント～」

(2) 講師について

石津 峰氏は福岡県内の公立中学校や公立社会教育総合センターで指導員として、野外活動、レクリエーション等の指導をされた後、福岡県内の教育事務所や社会教育総合センターで社会教育主事や地域学校協働推進班長として8年間、その後、福岡県内の公立小学校で管理職として1年間勤務された。そして、令和3年から国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの社会教育調査官として、国の生涯学習・社会教育を牽引されている。

公私にわたり貴重な経験をされており、実践にも取り組まれているので、本研修会の講師を依頼する運びとなった。

3 講演の内容


- (1) 社会教育行政における審議会・委員会について
- (2) 現代社会の様相について
- (3) 地域と学校のつながりについて
- (4) 今後の展望として（ウェルビーイングの実現に向けて）

4 講演会資料

日本の現状を知る上で

今の時代を表すキーワード

- ・ 人生100年時代(少子高齢化)
- ・ Society5.0
- ・ VUCAの時代
- ・ 社会的包摂
- ・ 共生社会
- ・ ウェルビーイング



11

なぜ今「学校と地域の連携・協働」による取組が必要なのか？

もはや、学校だけで進めるものではない

共生社会の実現に向けてできることは？

学校：児童・生徒・先生

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

社会：いじめ・不登校の問題、キャリア教育の方法等、部活動の見直し

統合した学校の**子供たちの心**、防犯・防災対策

子供たちの**食育の推進**等、地域課題解決学習の方法

家庭：保護者・兄弟・祖父母

地域：地域住民・友達の保護者

何を狙うの？どこが進めるの？それぞれでやるの？

19

第11期生涯学習分科会における議論の整理

～全ての人の**ウェルビーイング**を実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～
(令和4年6月中央教育審議会生涯学習分科会)

学校教育・社会教育・家庭教育を含む広い意味での学習機会を通じて

- ・ 社会的な課題に関する学習機会の保障
- ・ 学校教育以外の学びの機会の充実
- ・ 必要となる基礎的なスキルの習得
- ・ 広い意味でのリカレント教育

社会教育が「**学習機会**」を保証していく役割

51

生涯学習・社会教育の方向性


地域の現状を把握し課題を解決することが

だれにとつての幸せにつながる？
どんな地域社会をめざしていく？

そのために

これまでの取組 + 新たな視点

全ての人のウェルビーイングの実現

不易  **流行**

55

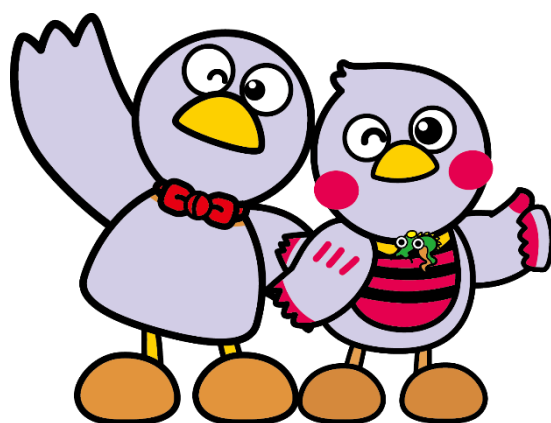
5 成果と課題

〈成果〉

- ・ 12市町の社会教育職員や担当者と協力し、オンラインで本研修会を開催することができ、参加者からは各自治体から参加できて大変よかったと好意的な意見をたくさんいただいた。
- ・ 国立教育政策研究所社会教育実践研究センターで活躍される講師の方のお話が拝聴でき、今求められることやその背景を学ぶことができ、大変貴重な機会となった。
- ・ 講演会の満足度を調査したところ、「大変よかった」「よかった」と多くの方々が回答しており、満足していただいたと捉えている。
- ・ コロナ禍で参集することができなかつたので、同じ自治体の方と自分たちの市町について協議ができて非常によかったとの感想をいただいた。

〈課題〉

- ・ 分科会のグループ協議は各市町の庁舎で実施したため、参会者の様子を細やかに伺い知ることが難しかった。
- ・ 昨年度は他市町を交えての協議、今年度は自治体ごとの協議を行った。隔年で実施をするなど、オンライン協議の在り方をさらに工夫していく必要がある。



「埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

編集・発行

埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会

令和6年3月

杉戸町教育委員会社会教育課内

〒345-8502 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-9-29

Tel 048-33-1111 Fax 048-33-7217

e-mail syakaikyoiku@town.sugito.saitama.jp